

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2021年3月21日第5号 (通巻11号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax:072-737-9454

mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp

facebook:oribunokai

トランプ後のためのシオニストの策動



トランプの敗北が明確になって以降、入植者による西岸でのパレスチナ人とその土地に対する攻撃が激化している。入植者たちが、集団でパレスチナの車両に対して投石をしたり、民家を襲ったり、土地を占拠し、パレスチナ人に暴力をふるうことが、連日行われている。もちろん、この犯罪行為は、イスラエル占領軍に防衛されている。また、アルアクサモスク、イブラヒムモスクを蹂躪し、パレスチナ人の礼拝者を追い出している。

他方で、イスラエル政府は、駆け込みで入植地の住宅建設などの拡大を図っている。また、西岸での建築許可がないことを口実とした、パレスチナ人の家屋、農業施設などへの破壊が進行している。イスラエル政府は、入植地の住宅建設を加速し、また、これまで、非合法としていた入植地の前哨地を合法化した。入植地をつなぐ道路をパレスチナ人の土地につくり、西岸の入植地を結び付け、併合への下準備をしている。また、住宅の破壊、農地の没収、農業施設の破壊、とクターなどの農機具の募集を行い。パレスチナ人を実質的にその居住地から追い出し、民族浄化をおこなっている。

また、イスラエルのイランへの挑発的攻撃が続いている。シリアにあるイラン、ヒズボラーの施設を攻撃し続けて

いる。また、レバノン国境でのヒズボラーへの挑発的な行動を行っている。これは、イランの反撃を引き出し、それを口実にイランに対する直接攻撃を行うことを狙っている。

こうしたアラブ領土への攻撃にも、イスラエルと正常化したアラブ反動諸国は、イスラエルを非難せず、イスラエルとの国交をエンジョイし、イスラエル製品だけでなく、入植地で作られたものまで輸入するという恥知らずな行動を行っている。

バイデン政権は、これまでの米国の政権同様に、イスラエルを中東支配の前哨基地と考えており、イスラエルの軍事的な優位を維持することに価値をおくことは、変わりがない。その証拠に、UAEへのF-35の売却をトランプ政権が決めたが、バイデン政権は一時停止している。これは、従来の米国の立場であり、最新兵器は、イスラエル以外に販売しないことで、イスラエルの軍事的な優位を確保するという立場である。

和平について、2国解決方式に、交渉にもどるのか。バイデン政権は、交渉で、2国解決方式を支持し、西岸の併合、ゴランの併合には、反対している。しかし、トランプ政権は、パレスチナ以外のアラブ諸国とイスラエルの国交正常化を行っており、シリア、レバノン以外の国

オリープの会通信 第5号(通巻11号)

とは、交渉の必要はすでになくなっている。すでに、パレスチナ自治政府は、イスラエルとの個別交渉(オスロ合意)で、自治政府となっている。旧来の立場であった、包括的和平交渉の余地はなく、イスラエルとの個別交渉に、欧州、米国、ロシアなどが仲介するという構造にしなければならない。

パレスチナ自治政府は、バイデン政権に賭けようとしている。すでにイスラエルとの治安共同を位階しているいったんイスラエルとの治安共同を拒否し、オスロ合意路線を否定しようとしたが、トランプ政権が倒れ、バイデン政権になった途端に、イスラエルとの共同に復帰し、オスロ合意路線に戻ろうとしている。これは、再び民族統一の方向に水を差すものである。

自治政府のアッバース大統領は、1月15日に評議会選挙を5月22日に、大統領選挙を7月31日に行うことを発表。15年ぶりに自治政府が選挙をおこなうことに。

この選挙がハマスとファタハの9月の合意によるもので、PFLPなど広範な民族対話による民族的統一を図る必要があるという声を受けて、カイロでエジプト政府の主導のもとにパレスチナ諸派による対話が行われた。イスラム聖戦機構が選挙への不参加を表明、また、PFLPも一部を保留した。これは、オスロ合意路線をのこしたままでは、パレスチナの分裂したままの状態を克服することはできないし、この選挙が公平に行われる保証もない。米国、イスラエルともに、ハマスが権力を握ることを望んでいないし、カイロ会議での合意も、これまでものと違ってないし、自治政府がイスラエルとの共同を復活させたことで、先行きは明確でなくなっている。



最近のコロナの報道では、イスラエルがワクチン接種の優等生と報じられている。ファイザーとイスラエルは直接取引をし、副作用などのデータを渡す条件で、もっともはやく手に入れ、早い速度でワクチン接種を行っている。

占領下にあるパレスチナに対しては、西岸に2000回分のワクチンを引き渡したただけであり、自治政府が自ら調達するものとしている。また、ガザへは、ワクチンを引き渡すのを止めたりと、パレスチナを占領支配下に置き、その主権を奪っているにも関わらず、パレスチナのワクチン接種は、パレスチナ自治政府が自分たちでやれとなっている。

また、イスラエル国内においても、75%にワクチン接種ができるのかといえば、急速に人口を増やしている超正統派ユダヤ教徒やアラブ系が協力的になるかとど

うかといわれている。元モサドの長官が、イスラエルは内部から崩壊すると述べているが、その根拠として、超正統派ユダヤ教徒とアラブ系の人口の増大を挙げている。超正統派ユダヤ教徒は、イスラエルの建国を認めない反シオニストであり、イスラエルでの兵役を拒否している。また、アラブ系は、ドルーズ派を除いて、兵役の対象となっていない。かれらが、多数派になれば、シオニスト国家は崩壊すると語っている。同様に、コロナのワクチン接種においても、超正統派ユダヤ人とアラブ系が応じるかが、疑問視されている。したがって、イスラエルが集団的免疫を達成するのは、難しいのではないかとされている。

ネタニヤフ政権や海外のマスコミが喧伝するように、イスラエルが成功しているわけではない。それは、明確に、シオニストが国内的に抱える矛盾、そして、占領国と日占領国との関係を明確にするものである。ま

た、イスラエルは、余剰のワクチンをイスラエル占領下のパレスチナではなく、自分たちの友好国に輸出しており、この行為は、国際的に非難されている。伊豆から占領し、主権を奪っているパレスチナに対する責任はイスラエルにあり、パレスチナが被害を受けるだけではない。それは、再びイスラエルに帰っていくことになる。

それは、世界的な持てる国と持たざる国のコロナ格差を示すものとなっている。世界的なパンデミックにおいて、一国だけが感染から逃れられることはない。世界が一体となって対処しなければ、感染症は終息することはない。世界は、人、ものの移動で、緊密に結び合っており、もはや切り離れることはない。そして、イスラエルが決

してコロナ対策の優等生ではないことを示している。

パレスチナは、ロシア製のワクチンや中国製などの提供を受けようとしている。

注：超正統派ユダヤ教徒は、イスラエルの人口の10%を形成しており、イスラエルの建国を認めず、イスラエルの再建は、メシアの到来によるとして、シオニズムを否定しており、兵役の拒否や学校教育の否定など独自の立場をとっている。総体として、貧しく、出生率は他のユダヤ人よりも多く、将来的に人口の40%を占めるといわれている。パレスチナへの連帯行動もしている。



自治政府のアッパース大統領は、1月15日に立法評議会の選挙を、大統領選挙を7月31日に行うと発表した。これは、実に15年ぶりであり、2007年の選挙でハマスが勝利し、ハマスとファタハの武力衝突とパレスチナの分裂となって以来である。

分裂した時点では、ハマスが政権をとることを嫌う、イスラエル、アメリカなどがアッパースらを支持し、ハマスに対決させた。民主的に選ばれたハマスを政権から追い出した。そして、イスラム同志会であるハマスを嫌うアラブ反動王制も自治政府を支援した。これによってパレスチナの分裂は深刻となり、民族的分裂により、選挙どころではなく、自治政府は選挙の要求を拒否してきた。その間、自治政府は、イスラエルとの治安共同をすすめ、パレスチナ抵抗運動の弾圧を自治政府が行い、イスラエルのガザへの攻撃を陰で支援してきた。自治政府は、ガザへの経済制裁すら行ってきた。

ハマスもまた、エジプトに誕生したムルシ、イスラ

ム同志会の政権の誕生で後ろ建てを得たが、クーデターでイスラム同胞団政権が倒れると孤立することになった。カタール、トルコなど関係をもっている。

他方で、トランプ政権の登場は、アメリカに依存しようとしていたアッパース自治政府は、米国政権が明確にイスラエル寄りであることから、オスロ合意路線が破綻することになり、イスラエルとの治安共同も停止するなど、対イスラエルの強硬な立場へと転換した。

それは、これまでの分裂の根拠が失われることになった。ファタハとハマスをはじめとする諸党派との対話が行えるようになり、9月にハマスとファタハで選挙を行うことを合意した。

2018年にラマッラーで開かれた民族評議会の会期中に定められた決定事項には、パレスチナ解放機構(PLO)の執行委員会は、イスラエルが1967年の国境に基づいてパレスチナ国家を承認するまで、イスラエルの承認を停止する任務があった。つまり、東エルサ

レムを併合する決定を取り消し、入植地を停止するということだ。

また、レバノンで行われた各派の書記長会議でも、オスロ合意を否定し、抵抗闘争を強めることを合意していたが、自治政府は、トラップ政権の選挙での敗北が明らかになった時点で、再びイスラエルとの治安共同を復活させた。これは、バイデン政権になって、旧来の米国の立場に変わることを期待したものであった。

選挙の発表の後、PFLPなどは、選挙の前に民族対話をし、民族的統一を復活させることを重視すべきと主張し

た。

カイロで、エジプトが主導する民族対話が開催され、ほとんどの党派が招かれ話を行った。自治政府側がオスロ合意の決別という明確な立場をとらなかったため、イスラム聖戦機構が選挙への不参加を表明。人民戦線は保留という立場をとった。

また、選挙では、ファタハにも、自治政府にもくみしない独自の立場で戦うという立場をとった。果たして選挙は、分裂を克服するものとなるのかは、明確ではない。

オスロを再び復活させる....そして偽妊娠



2021年2月6日に投稿 | 10:15 (PFLPのホームページより転載)

1994年9月13日にパレスチナ解放機構の指導者と占領国との間で署名されたオスロ暫定合意によって実行されたものは、暫定としていわゆる最終的なステータス交渉を待っているといういわゆる合意の下で、民族的社会的構造を解体するという点で、そして土地と人々を分割する、エルサレムと難民の問題を削除するという観点からも、あらゆる意味で我が民衆への大災害であった。そして占領刑務所内の48年領内とエルサレム出身の獄中者の生存にオスロ合意に責任があることを言及するだけで十分である。パレスチナ人の交渉担当者がイスラエルの条件に応じて、パレスチナ人の獄中者の名前でも交渉しないようにしたため、占領刑務所のパレスチナの48年領内部からとエルサレムの獄中者は、強制的に国籍をもたされイスラエルとエルサレムの獄中者として、青いイスラエルの身分証明書を「永住者」として保持してすることになった。

殺害されたイスラエルの政治の狐であるペレスによって、ナクバに続く占領国の2回目の勝利であると説明さ

れたオスロを、いくらかの人びとは依然としてそれを擁護し、再びそこに戻ることを熱望している。この記事の本文とその本質に入る前に、短い記憶と言葉を操作し、大衆を欺くのが得意で、偽りの幻想をだまして売った人々に、アメリカの外交政策がアメリカ人によって決定されていることを思い出させて確認する必要がある。アメリカはディープステートであり、お金、石油、武器の面で大きな独占カルテルの所有者が支配し、したがって大統領はこれらの利益を表明し、彼がそれらを逸脱した場合、彼は交代、解雇、または暗殺される。

そして、民主党のアメリカ大統領バイデンは、シオニストになるためにユダヤ人であることが条件ではないと明確に言った。アメリカの2つの主要な党、共和党と民主党がイスラエルの軍事的優位性について合意しており、それは依然としてアメリカの前哨基地とこの地域の西側の植民地勢力であることについても合意している。

そして、アメリカ議会は1995年10月23日にテルアビブからエルサレムへのアメリカ大使館の移転を合法化し、それを占領国の首都として認めましたが、アメリカ

の利益と目標を考慮して移転プロセスは延期されていた。この地域では、アメリカの大統領トランプが彼の決定を発表することによってこの決定を促進するために働くまで延期されていた。2017年6月12日に大使館が移転し、パレスチナのレイブから70周年を迎える2018年5月14日に、大使館が占領国の首都として承認された。

民主党がアメリカで政権に復帰したことで、パレスチナ・イスラエル戦線の和解経路を再浮上させるためにアメリカの外交政策の試みと修正が行われ、世紀の取引と、(いわゆる解決策の幻想に到達するための新しい交渉のマラソンレースにおける)自治との間で、オスロ2を生産するためにオスロを復活させる試みが行われている。二国家、トランプとネタニヤフが率いるアメリカとイスラエルの右翼勢力と過激派勢力が、アメリカ政府とイスラエル政府が行った一連のステップとプロジェクトを通じて、アメリカとイスラエル政府がパレスチナ人の諸権利を排除するようになったというこの幻想。それは、テルアビブからエルサレムへの大使館移動、エルサレムを占領国の統一首都として認識し、ヨルダン川西岸の入植地、さらには入植地製品を合法化し、占領政府はエルサレムに対する支配を強化し、入植地プロジェクトを通じてパレスチナ人を排除し、数千の入植地ユニットを建設しました。西岸での入植地活動の強化、いわゆる入植地前哨基地の合法化、土地の質と農業用水資源の提供のためのヨルダン渓谷への入植地の集中、同様に私たちパレスチナ人の民族的権利の廃止、とりわけ帰還の権利、UNRWAの資金提供停止などによって、なりたっている。

今日、アメリカ政権の到来とともに、そして公式のアラブ正常化の恥ずかしさと不道徳に照らして、交渉とオスロを復活させることについての話があるが、アメリカ大使館を移転して占領国の首都として認めたり、入植地や入植地商品を合法化したりするなどのパレスチナ人の民族のおよび政治的権利を対象とした以前のアメリカの決定をキャンセルすることはない。交渉はつくりあげられた現場の事実が明らかになった時点からであり、これからパレスチナ側とイスラエル側は、残りの二国家解決とオスロ合意に影響を与える一方的な措置をとらないよう要求されている。自治政府は、アメリカがワシントンのパレスチナ駐在員事務所を再開し、アメリカ開発局の仕事を回復し、治安機関とパレスチナ自治政府に財政支援を提供し、市の東部にあるアメリカ領事館を再開し、UNRWAに部分的な資金を提供するという米国の魅力的な申し入れに対してレディであり、熱心であるように思わ

れる。

現在の米国政権と前の米国政権との区別の口実と幻想の下で、オスロ合意に従って交渉と当局の安全保障義務の履行に戻るでしょう。私たちは、アメリカの利益とイスラエルの利益が1つであり、その区別が2つの立場の本質に影響を与えないことを十分に認識しており、アメリカ政府がイスラエル政府に妥協案を受け入れるよう圧力をかけることは間違いないという賭け、負けた賭けであり、偽妊娠の幻想であり、「実験者を再試行する」ことへの復帰であり、ギャンブルと実験を行う人々の権利に対処することであり、指導部はバランスの欠陥に照らしてそれを十分に認識している。占領者に有利な権力の場合、最低限の国民の権利を満たす解決策を抽出することは不可能です。1967年6月4日の国境にある独立国家であり、エルサレムを首都とするパレスチナ人の正当性を確保し、国連決議(194)に従ったパレスチナ難民の帰還権を確保しなければならない。

アメリカ政府は、オスロの死の宣言といわゆる二国家解決の選択肢が、アメリカまたは占領国への奉仕を構成するのではなく、パレスチナ国民の闘争に役立つことを十分に認識しています。

有形の言葉で言えば、これはパレスチナの人々があらゆる形態の抵抗の選択、アプローチ、文化の周りに集結することを意味し、これはまた、具体的な成果と勝利を蓄積している地域の抵抗の軸のサポートに該当します、そしてアラブの合理性とリアリズムのいわゆる軸への賭けを放棄し、ジョギングと正常化の不道徳の同盟の擁護者、そしてこれは入植地文化、そのアプローチ、そしてその選択との決別し、抵抗のアプローチ、選択、文化に結集することである。

この立場から、私たちは明確に、米国政府は、パレスチナの領土での献身的な事実によって達成されたもの、占領国とアラブ諸国との治安・軍事同盟が崩壊することを望んでいないと考える。すなわち、彼らの仕事は、交渉の復活であり、オスロの復活であり紛争を管理することである。地域でのイスラエルの戦略的目標を達成することを可能とすること、居住の選択に結集する人民大衆を強める方法をカットすることで解決させないことである。4半世紀の交渉を妨げているのは、故ジャミールイスラエル首相が言ったように、アラブの権利を実現することなく、占領権力の利益を実現するという立場である。

だからこそ、占領下のパレスチナとその民族主義勢力に対する国民の闘争の利益は、一方ではあらゆる形態の抵抗の選択肢に関するパレスチナの立場を統一し、パレスチナの国民の権利を守ることによって、このアメリカの計画を阻止することにある。そしてそれらを見捨てることを拒否し、その一方で最も重要なのは帰還権です。特

ヨルダン川西岸とガザ地区のパレスチナ農業セクターに対するイスラエルの占領軍と入植者の攻撃に関する報告

出典：UAWC 農業委員会 2020年12月、占領軍がヨルダン渓谷のサクアウト春を鉄の門で閉鎖

2020年12月

12月のパレスチナ領土での占領軍と入植者の攻撃により、ヨルダン川西岸とガザ地区の農民、漁師、農地で数十件の銃撃事件が発生しました。農民の土地からの没収と立ち退きに加えて、これには樹木の根こそぎと農業資産の破壊が含まれていました。このレポートでは、農業労働委員会連合(UAWC)とその農業委員会が2020年12月の攻撃を監視しました。

この報告書の法的、人道的、および人権の側面は、特に、国際的な宣言、条約、および人権の誓約に基づいて構築されています。とりわけ世界人権宣言(UDHR)、戦争時の民間人の保護に関連する第4ジュネーブ条約(GCIV)、第3に、市民的および政治的権利に関する国際規約(ICCPR)、第4に、国際規約経済的、社会的および文化的権利(ICESCR)、第5に、農村地域で働く農民およびその他の人々の権利に関する国連宣言(UNDROP)およびパレスチナ基本法の関連記事に基づいている¹。

¹ 農民とフレームの権利に関連する基本的な法的条項：

1- 国連農村地域で働く人々の権利に関する宣言(UNDROP)の第1条で定義されている「農民」の国際的な定義は、次のように述べています。「農民とは、従事する人、または自給自足および/または市場のために小規模農業生産に単独で、または他者と協力して、またはコミュニティとして従事することを目指しており、必ずしも排他的ではないが、家族または家事労働およびその他の非収益化に大きく依存している労働を組織化する方法、そして誰が土地に特別な依存と愛着を持っているか」(p 4, 2018)。

2- ジュネーブ第4条約第4条第1項による保護対象者は、次のように述べています。条約によって保護されている者とは、紛争や占領の場合に、特定の瞬間に、いかなる方法でも、国民ではない紛争または占領国の当事者の手」(p8, 1994)。

このレポートのすべての違反事例は、「すべての人が生命、自由、人の安全に対する権利を持っている」と述べているUDHRの第3条の違反を表していることを明確にすることが重要です(p2, 1948)。

3- パレスチナ基本法：https://www.elections.ps/Portals/0/pdf/The_amended



に、占領国はオスロ合意以来、入植地政策の継続と占領現状の強化、そしてシオニストのセキュリティサービスとの治安共同におけるパレスチナ自治政府の継続をカバーする以外は、もはやそれを望んでいない。

A: 平和的な集会と身体的インテグリティの権利：

イスラエルの侵害の同様のケースは、パレスチナの都市、村、町、キャンプで繰り返されており、一般的な人権原則、特に農民の権利を明示的に侵害しています。このセクションの以下のすべての侵害は、生存権に対する明らかな侵害です。これは、ほとんどの人権および国際法の条約と宣言の不可欠な部分です。市民的および政治的権利に関する国際規約の第6条の最初の段落には、「すべての人間には生命に対する固有の権利があります。この権利は法律によって保護されるものとし、誰も彼の命を恣意的に奪われてはならない」(p4, 1966)。パレスチナの農民と民間人の生存権を脅かすのは、UNDROPの第6条に違反しており、「農村地域で働く農民と他の人々は、生命、肉体的および精神的完全性、人の自由と安全に対する権利を持っている」と述べています(p7, 2018)。パレスチナの農民は、平和的な集会と身体的インテグリティに対する彼らの権利の侵害に苦しんでいます。土地や天然資源に対する主権の権利を保護するために平和活動の権利を行使することはできません。一方、イスラエルの占領軍は、移動と居住の自由の権利を強調するパレスチナ基本法第21条に違反しています。これはまた、イスラエルの占領軍が、占領国が占領する土地の部分的な法律を遵守しなければならないと規定しているジュネーブ第4条約の第64条に違反していることを意味します。さらに、農民の平和的活動を攻撃することは、政治的および市民的権利に関する国際規約の第21条に違反している。この記事には、「平和的な集会の権利が認められている。法律に従って違反した場合を除き、この権利の行使に制限を設けることは許可されていません。

さらに、以下のすべての違反は、UNDROPの第8条に違反しており、次のように述べて、「人権と基本的自由の侵害に対する平和的活動に参加するために、他の人々と協力して、またはコミュニティとして農民の平和的な集会の

権利を強調しています。」(p7、2018) イスラエルの占領は、農民とその子供たちに対する残忍な攻撃を続け、今月、占領軍は土地の没収に反対する平和的な集会に参加していた11歳のパレスチナ人の子供を殺害されました。



殉教者アリアブアリア「ナンバー13」

A-1：銃撃および身体的暴行の犯罪：

1- 2020年12月4日、イスラエルの占領軍は、ムガイル村の東の入り口近くのラサルーティンに新しい違法な入植地への没収の脅威にさらされている土地への平和的な行進の弾圧中に、パレスチナ人の14歳の子供、アリアイマンナスアブアリアを殺害し、他の4人の民間人を負傷させました。

2- 2020年12月4日、イスラエルの占領軍は、新しい入植地プロジェクトの為に土地の没収に反対する平和的なデモを鎮圧している間に、サルフィート県のアルラス村で多くの市民を負傷させた。

3- 2020年12月10日、占領軍は、ラマラ県のアルムガイア村での土地の没収と入植地前哨基地の建設に反対する平和的なデモ中に9人の一般市民を負傷させた。

4- 2020年12月18日、占領軍がナブルス県のベイトダジャン村での土地の没収に対する平和的なデモを抑制したとき、多くの民間人が窒息に苦しんだ。

5- 2020年12月18日、占領軍による土地没収に対する平和的なデモの抑制と、ラマラ県のムガイヤー村に入植地前哨基地が設立された結果、数十人の市民が窒息に苦しんだ。

6- 2020年12月25日、イスラエルの占領軍は3人の民間人を負傷させ、窒息事件を引き起こした。これは、土地の没収とラマラ県のクフルマレク村とデイルジャリル村の土地に入植地前哨基地を設立することに対する平和的なデモの抑制によるものでした。

A-2：ガザの漁師と農地への暴行：

1- 2020年12月1日、イスラエルの占領軍がガザ地区の

ベイトハヌーンの国境地帯で発砲し、野外で働く羊飼いと農民の間でパニックを引き起こしました。負傷者は報告されていません。

2- 2020年12月1日、イスラエルの占領軍がカーンユニスとイスラエルの国境地帯に駐留し、農地とバードハンターに発砲しました。負傷者は報告されていません。

3- 2020年12月1日、イスラエルの占領軍は、約3海里的距離にあるパレスチナの漁船を追跡しました。イスラエルの砲艦はガザ地区のベイトラヒアのアルワハ沖に駐屯していました。

4- 2020年12月3日、イスラエルの占領軍は、ガザ地区のアルワハ地域の反対側の海に配置されたイスラエルの砲艦を介して、約3海里的距離にあるパレスチナの漁船を追跡しました。イスラエルの砲艦は漁師の周りに広く展開した。これは逃げることを余儀なくされた漁師の間で恐怖とパニックを引き起こしました、しかし怪我は報告されませんでした。

5- 2020年12月4日、ベイトハヌーンの「エレズ」交差点に駐留していたイスラエルの占領軍が国境地帯で発砲し、農地近くの農民に恐怖とパニックを広めた。負傷者は報告されていない。

6- 2020年12月4日。ガザ地区北部のスダニア地域沖の海でイスラエルの占領軍の砲艦が、4海里離れた場所にあるパレスチナの漁師の船を追跡しました。パレスチナの漁師のボートの周りでイスラエルの砲艦の火が広範囲に開かれ、逃げることを余儀なくされた漁師の間で恐怖とパニックを引き起こしましたが、負傷者は報告されていません。

7- 2020年12月5日。イスラエルの占領軍は、約3海里的距離にあるパレスチナの漁師のボートを追いかけてきました。イスラエルの砲艦は、ガザ地区の北、ベイトラヒアの北西にあるアルワハ地域の前の海に駐屯していました。イスラエルの砲艦が漁師の周りで断続的に展開したため、逃げることを余儀なくされた漁師の間で恐怖とパニックが発生しましたが、負傷者は報告されていません。

8- 2020年12月6日。ハーン・ユニスの東に駐留しているイスラエルの占領軍は、死傷者を報告することなく、クザアの東に農地に発砲した。

9- 2020年12月12日。イスラエルの占領軍は、約3海里的距離にあるパレスチナの漁師のボートを追いかけてきました。ベイトラヒアのアルワハ地域の海に駐屯していた砲艦が発砲し、漁師にパニックを引き起こしました。逃亡を余儀なくされた、負傷者は報告されていません。

10- 2020年12月。国境内に駐留しているイスラエルの占領軍兵士ハーン・ユニスの東にあるイスラエルとの境

オリーブの会通信 第5号(通巻11号)

界で、アル・フォカリの町の東にある農地に発砲したが、負傷者は報告されていない。

11- 2020年12月13日。 Beit Hamun のサイト16に駐留しているイスラエルの占領軍は、羊飼いのグループに機関銃で発砲しました。これは恐怖とパニックを引き起こし、彼らをその地域から逃げさせました。怪我や損害は報告されていません。

12- 2020年12月17日。 Harn Yunis の国境に駐留しているイスラエルの占領軍は、フォローアップを行っているアルファカリ村にいたジャーナリスト、農民、農業省の乗組員のグループに発砲した。銃撃の結果、イスラエルの占領軍の侵入、その地域の農民に向けられた警告を記録するためにいた農業省の職員と農民はその地域からの撤退を余儀なくされ、負傷者は報告されなかった。

13- 2020年12月14日。 中央県のディール・エルバラーの北東の国境地帯に駐留しているイスラエルの占領軍が、隣接地域の羊飼いに機関銃と催涙ガスで発砲しました。負傷者は報告されていません。

14- 2020年12月21日。イスラエルの占領軍は、ガザ地区北部のベイトラヒアの北西にあるアルワハ地域の反対側の海に配置されたガンポートを通して、遠くにあったパレスチナの漁師のボートを追跡しました。それは約3海里と推定されており、周囲に激しく発砲しました。この作業は同日の午前7時30分頃まで随時続き、逃亡を余儀なくされた漁師たちに恐怖とパニックを引き起こし、負傷者は報告されていません。

15- 2020年12月22日。イスラエルの占領軍は、ガザ地区北部のジャバリアの北東、アブサフィヤ地域の東にある分離フェンスに駐留しました。彼らは国境に隣接する国境地帯で自動兵器を使って発砲し、負傷者や損害は報告されていません。

16- 2020年12月25日。中央政府のディール・エルバラーの東の国境地帯に駐留していたイスラエルの占領軍は、隣接する農地で機関銃を使って発砲し、負傷者は報告されなかった。

17- 2020年12月26日。中央政府のディール・エルバラーの東の国境地帯に駐屯しているイスラエルの占領軍兵士は、隣接する土地の羊飼いに機関銃で発砲し、その場所を離れることを余儀なくされた。負傷者が報告されました。

18- 2020年12月28日。イスラエルの占領軍は、ガザ地区北部のベイトラヒア北西部のアルワハ地域沖に駐屯しているガンポートを介して、約3海里の距離にあるパレスチナの漁師のボートを追跡しました。イスラエルの砲艦はその近くで重機関銃の発砲を開始しました。これ

は漁師の間で恐怖とパニックを引き起こし、彼らを逃げさせ、負傷者は報告されなかった。

ヘブロンハリディア地域の住宅とバラックの取り壊し



B: 人権侵害としての軍事命令 :

この土地の破壊と削り取りの方針は、ジュネーブ第4条約の第53条に違反しており、「個人または集団が個人、国家、または他の公的機関に属する不動産または動産の占領国による破壊はすべて」と述べています。「または社会的または協力的な組織に対しては、そのような破壊が軍事作戦によって絶対に必要とされる場合を除いて、禁止されている」(p 25, 1994)。さらに、破壊政策はパレスチナ人の自己決定権と経済成長の権利を奪っています。ICESCRの第1条第3項は、「非自治地域および信託統治地域の管理に責任を負う者を含む、現在の規約の締約国は、自己決定権の実現を促進し、それを尊重するものとする。権利、国連憲章の規定に準拠」(p1, 1966)。同時に、イスラエルの占領は、パレスチナ人の耕作地に対する自己決定権を奪っています。たとえば、ヘブロン西にあるそば地区では、樹齢20年のアーモンドの木が9ドゥナム、樹齢20年のオリーブの木が植えられた7ドゥナム、樹齢10年のサボテンの木が植えられた3ドゥナムが掃引されました。これらの土地はエリアCに分類されていると主張します。さらに、そのようなケースは、UDHRの第17条の第2項に違反していると述べています。「誰も恣意的に彼の財産を奪われない」(p 5, 1948)。さらに、これらの違反事件は、違法な移動から保護されるという農民の権利と矛盾しています。UNDROPの第17条の paragraph 4によると:「農村地域で働く農民およびその他の人々は、彼らの土地または常居所からの恣意的かつ違法な移動、または彼らの活動に使用されるその他の天然資源から保護される権利を有します。十分な生活水準を楽しむために必要イオン。国家は、恣意的かつ違法な強制立ち退き、農業地域の破壊、および懲罰的措置または戦争の手段または方法を含む、土地およびその他の天然資源の没収または収用を禁止するものとする」(p12, 2018)。そして、提起されるべき最後の重要な点は、イスラエルの占領の破壊政策が、経済発展、私有財産、

土地所有の自由を保護するパレスチナ基本法の第21条、特にパラグラフ2、3、4に違反しているということです。



ヘブロン県のキルベトアルシミヤでの取り壊し

B-1: 軍事命令、没収、施設の取り壊し: 樹木の根こそぎと土地の平準化を含む:

- 1- 2020年11月30日、占領軍は、違法建築の主張により、ヘブロン県ハルフル市の100m³の井戸を取り壊しました。
- 2- 2020年12月1日、占領軍はヘブロン県のヤッタ市にあるパレスチナ市民と彼の6人の兄弟のために、8平方メートルの洞窟とブリキの屋根の部屋を破壊しました。総資産は20ドノムで、木が植えられています。家族は洞窟を肥料や農具の倉庫として使っていました。
- 3- 2020年12月1日、イスラエルの占領軍はセバステアアの3つの農業用住宅を取り壊しました。各住宅は20平方メートルで、破壊されました。農地、水タンク、ソーラー照明ユニットの1ドゥナムを囲むフェンス。ナブルスとその村の3人の市民が所有する3つの家の隣にあるプラスチックの低木を破壊することに加えて。施設は無免許建設という口実で取り壊されました。
- 4- 2020年12月2日、いくつかの軍用車両で補強されたイスラエルの占領軍が、ヘブロン県のピリン村を襲撃しました。軍は、土地が「国有財産」であるという口実の下で、村から市民を逮捕し、彼が彼の土地で働くことを妨げた。兵士たちは掘削機を没収しました。村の土地に建てられた「アスファー」入植地の陸軍キャンプに移されました。
- 5- 2020年12月3日、占領軍は撤去され、解体されました。ラマラ県のディール・ダブワン村にある2つのテント、90平方メートルのストックカーテン、飼料を保管するために使用される40平方メートルのテント、および200平方メートルの納屋。これは無認可の建設という口実の下にありました。
- 6- 2020年12月6日、イスラエルの占領軍がツバスのアトーフ平原を襲撃し、村議会の監督下で農道の開拓に取り組んでいる間に2人の掘削機を没収し、没収はエリアCでの違法な作業の口実で行われた。
- 7- 2020年12月7日、イスラエルの占領軍は、ベツレヘム県のアルカデルの町で数百本のオリーブとブドウの苗木を根こそぎにしました。 Al-Khader Municipality は、

占領軍が30本以上のオリーブの苗木を根こそぎにしたと報告しました。また、町のアルバシヤ地区にある6ドンの土地をブルドーザーで覆い、100本のオリーブの木と50本のブドウの苗木を根こそぎにしました。パレスチナの農民に彼らの土地を去らせるために、占領軍が以前にこの土地を2回ブルドーザーで更地にしたことは注目に値します。

8- 2020年12月8日、イスラエルの占領軍が数台の軍用車両を持って、ラマラ県のアルムガイア村の東20年以來ベドウィンコミュニティの住居であるカブーン地域を襲撃しました。占領当局はイスラエルの民間企業から労働者を連れてきた。彼らは牛や羊を飼育するために使用されていた90平方メートルの納屋を解体して没収しました。これは、エリアCとして分類されたエリアでの許可されていない建設の口実の下でした。

9- 2020年12月8日、数台の軍用車両を持ったイスラエルの占領軍が、ベドウィンのコミュニティが20年間住んでいたラマラ県の北東にあるアルカブーン地域に侵入しました。占領当局はイスラエルの民間企業から労働者を連れてきて、鉄で作られたバラックを解体して没収した。家畜や羊を飼育するために使用されたこれらのバラックの没収は、エリアCに分類されたエリアでの無許可の建設の口実の下で行われました。

10- 2020年12月8日、数台の軍用車両を持ったイスラエルの占領軍が、エリコ県北部のシャルアルオージャ集会エリアを襲撃しました。これらの部隊はこの地域を包囲し、イスラエルの民間企業から労働者を連れてきて、鉄でできた7つの無人バラックを没収した。一つは、家畜を養うために大麦と小麦の作物を保管するために使用されるバラックであった。ブルドーザーで作物材料を没収しました、これはCとして分類された地域で建物を建てたという口実の下にありました。

11- 2020年12月8日、車両を伴ったイスラエルの占領軍がヘブロン県のキルベトアルシミヤを襲撃した。この地域には兵士が配備され、家畜の飼育に使用されていた100平方メートルの錫屋根のバラックの解体が始まりました。

12- 2020年12月9日、イスラエルの占領軍はミリヘブロン県のキルベト・アル・ジャワヤに襲撃されたタリー車両は、住宅での作業停止命令を広め、納屋は無認可の建造物であると主張し、2020年12月3日まで退去通知を出しました。

13- 2020年12月13日、イスラエルの占領軍が軍用車両でヘブロン県のキルベトザヌータを襲撃した。それは、住宅と納屋がCに分類された地域で無認可の建造物であ

オリーブの会通信 第5号(通巻11号)

ると主張する(14) 作業停止命令の配布を開始した。

14- 2020年12月13日、農民が自分たちの土地で働いている間、イスラエルの占領軍はヨルダン渓谷北部のウムアルカバ地域を襲撃し、村議会が所有するトラクターを没収しました。

15- 2020年12月15日、占領軍はヘブロン県のそば地域を襲撃した。占領軍は500平方メートルの擁壁を破壊し、20年前のアーモンドの木が植えられた9ドゥナム、20年前のオリーブの木7ドゥナム、10年前のサボテンの木のある耕作地の3ドゥナムを破壊しました。掃引および解体作業は、Cとして分類された地域で行われていると主張されました。

16- 2020年12月16日、数台の軍用車両を持ったイスラエルの占領軍が、エリコの北にあるヨルダン渓谷中央部のズベイダット村を襲撃しました。彼らは2台のトラクターを没収し、その土地が「国有財産」であると潮干狩りをする市民の作業を停止し、兵士たちは2台のトラクターを没収しました。

17- 2020年12月20日、パレスチナ市民は、エルサレムの占領地域からの違法建築の主張による解体の決定と、動物の飼育を禁止するという自治体の決定の結果として、エルサレムのシルワンにある人間の住人の近く自分のバラックを強制的に破壊しました。

18- 2020年12月20日、イスラエルの占領軍がヘブロン県のキルベトアルシミヤを襲撃し、兵士がその地域に配備され、車両が兵舎と井戸を破壊し始めました。

19- 2020年12月21日、占領軍はヨルダン渓谷のサクアウト春を門で閉鎖しました。

20- 2020年12月22日、軍用車両を持ったイスラエルの占領軍が、ヘブロン県のダヒリヤの町の東にあるキルベトザヌータを襲撃した。町の入り口に兵士が配置され、作業停止命令を出すことに加えて、手掘り装置、発電機、車両を没収しました。

21- 2020年12月27日、イスラエルの占領軍がジェニンのカラトアルタルのウエストバレー地域を襲撃し、地域Cでの違法建築を口実に作業停止通知を出しました。

22- 2020年12月29日、イスラエルの占領軍がジェニン県のシラットハリシアのハフィラ地域を襲撃し、前述の町の農業技術者に、面積250のスカッシュ作物が植えられた温室を破壊するよう通知しました。平方メートル考古学的なエリアとエリアCにある土地の口実の下で。

23- 2020年12月30日、イスラエルの占領軍は、ベツレヘム県のアルジャバ村で数百本のオリーブの木を根こそぎにし、広大な土地をブルドーザーで覆いました。

C: 人権侵害としての入植者の攻撃:

このような攻撃は、国際公法の一部門である国際環境法(IEL)の違反を表しています。国連によると、IELは「環境の持続可能性の基盤であり、その目的の完全な実現は、増大する環境圧力に対してますます緊急になっています。環境法の違反は、持続可能な開発と環境の持続可能性のすべての側面の達成を損なう」。それに加えて、入植者の攻撃は、「彼のプライバシー、家族、家、通信への恣意的な干渉、または彼の名誉と評判への攻撃にさらされてはならない」と述べているUDHRの第12条に違反しています。誰もがそのような干渉や攻撃から法律を保護する権利を持っています」(p4, 1948) さらに、オリーブの木を伐採すると、農民は天然資源である土地や樹木を持続可能な形で楽しむことができなくなります。これは、UNDROPの第19条のパラグラフ1に違反することを意味し、「(d) 農場で保存された種子または繁殖材料を保存、使用、交換、販売する権利」(p13, 2018)と述べています。これらの非人道的な行動はすべて、環境を脅かしています。以下の文書化された違反は、上記の法律だけでなく、「清潔でバランスの取れた環境は人権である」と述べているパレスチナ基本法の第33条に対する入植者の違反を反映しています。現在および将来の世代の環境保護は国の責任です」(p9, 2003)。



ヨルダン渓谷での農業用トラクターの没収。

C-1: 入植者による農民への攻撃: 樹木を根こそぎにし、農民とその財産を攻撃する:

1- 2020年11月27日、ラマラ県のツルムスアヤ村の土地に設立された「シロ」入植地からの入植者のグループがトウルムス・アヤのパレスチナの農民は、農民とその所有物を襲撃し、1~3年生の約150本のブドウの木を根こそぎにし、3つの医療施設を破壊し、約5年生の5本のオリーブの木の枝を切り倒しました。

2- 2020年11月29日、入植者はアルラスとアルマハジャーの地域に新しい前哨基地を設立し始め、サルフィート市の西部地域の50ドゥナムを破壊することから始まり、2000年頃に砲撃で終わりました。この被害の目的は、「アリエル」入植地と「アリエル住宅」地域の

工業地帯であるエリア全体、および「タフーとアリエル入植地の間」のすべての入植地を接続する新しい入植地前哨基地を設立することです。さらに、作業は現在進行中です

クフルカシム市から、サルフィット市の東にあるザータラ地域まで、入植地ブロックを相互に接続します。入植者たちは、ブルドーザーと破壊された部分にキャラバンを設置し、羊牧場を設立しました。

3- 2020年12月3日、サルフィットの東にあるヤスーフ村の一部に建設されたタフー入植地からの入植者のグループが、ヤスーフ村のカルム東部にある42本のオリーブの木を根こそぎにしました。

4- 2020年12月5日、サルフィット県のヤスーフ村の土地の一部に建設されたラハリム入植地からの入植者のグループが、ハンドソーを使用してアルマーワ地域での38本のオリーブの木を根こそぎにしました。

5- 2020年12月7日、サルフィット県のハリス村の土地の一部に建設されたラファファ集落からの入植者のグループが、カレットアブアルエラ地域の10本のオリーブとイチジクの木を根こそぎにしました。

6- 2020年12月11日、入植者のグループが、ヘブロン東のバカー地区にある市民の土地に、没収された市民の上に建てられた「キルヤットアルバ」入植地の近くに、レンガと木で作られた小屋を建てました。ヘブロン東に着陸します。入植者の攻撃は、パレスチナ市民がエリアCに分類されるエリアであるという口実でこれらの土地を修復することを禁じられている、「キルヤットアルバ」入植地の反対側の丘にあるジェイバー家の市民の土地を支配しようとして来ました。

7- 2020年12月13日、ヘブロン東にある「キルヤットアルバ」入植地からの入植者のグループが、アルアダイサ地域の市民の家を攻撃しようとして、家の近くの土地にいる市民。その土地を支配しようとして、彼らは住民を侮辱し、家を燃やすと脅した。

8- 2020年12月17日、イスラエルの入植者はベツレヘムの東にあるキサン村で250本の木を根こそぎにしました。入植者による最近の激化する攻撃が、彼らの居住地に併合することを目的として、キサン市民の土地を占領することを目的としていることは注目に値します。

9- 2020年12月17日、ラマラ県のアルムガイア村の土地に建設された「アディアド」入植地から侵入した入植者のグループが、パレスチナ人が所有する5~6歳のオリーブの木を苗木約30本を根こそぎにしました。

10- 2020年12月20日、「ペイザプライス」グループと名乗る入植者のグループが、ナブルスの南東にあるジャ

ロウド村の土地の前哨基地である「アヤア」入植地から攻撃し、植えられた50本のオリーブの苗木を根こそぎにした。

11- 2020年12月24日、ヘブロン県のタワナの没収された土地に建てられた「ハファットマオン」の入植地の前哨基地からの入植者のグループが、5歳の34本のオリーブの苗木を根こそぎにしました。前述の前哨基地から約100メートルのアルキラ地区にあるアルハリニ家の土地。

参考文献:

- 赤十字国際委員会 (ICRC)、戦争時の民間人の保護に関するジュネーブ条約 (第4ジュネーブ条約)、1949年8月12日、75 UNTS 287、<https://www.refworld.org/docid/3ae6b36d2.html> [
- 国連総会、農村地域で働く農民およびその他の人々の権利に関する国連宣言: 決議 / 2018年9月28日に人権理事会で採択、A / HRC / 39 / L.16、<https://www.digitallibrary.un.org/record/1650694?ln=en>
- 食糧農業機関、食糧農業植物遺伝資源に関する国際条約は、2001年の国連食糧農業機関 (FAO) の会議で承認されました。 <http://www.fao.org/3/a-i0510e.pdf>
- 国連総会、世界人権宣言、1948年12月10日、217 A (III)、<https://www.refworld.org/docid/3ae6b3712c.html> で入手可能
- 国連総会、市民および政治的権利に関する国際規約、1966年12月16日、国連、条約シリーズ、vol. 999、p. 171、<https://www.refworld.org/docid/3ae6b3aa0.html> で入手可能
- 国連総会、経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約、市民および政治的権利に関する国際規約および任意議定書市民的および政治的権利に関する国際規約、1966年12月16日、A / RES / 2200、<https://www.refworld.org/docid/3b00f47924.html> で入手可能
- 2003年パレスチナ基本法
- 農業連合作業委員会 (UAWC)
- (パレスチナ人権センター)。
- 「環境法」、国連、<https://www.un.org/ruleoflaw/thematic-areas/land-property-environment/environmental-law/>





バシャー・ムラド (クレジット: David Corio)

ウィリアム・ラルストン

2019年9月17日

地域のミュージシャンは大きな騒ぎを起こしている - 彼らが彼らの仕事を聞くために克服した障害を考えると、それはさらに注目に値する、とウィリアム・ラルストンは書いている。

G

東エルサレムで育ったバシャー・ムラドは、困難な政治的現実と彼の社会の保守的な要素と戦うゲイの男性であるという感情的なプレッシャーに悩まされている生活の中で快適さを求めて音楽に目を向けました。それはまた、イスラエルの占領によって彼の人生に課せられた国境を越える方法にもなりました。外の世界とつながるための媒体。彼は自分の曲をリリースする前に、西洋のポップスのカバーから始めました。アラビア語と英語の曲があります。常にキャッチーなフック、大胆な自作の動画、表現の自由に取り組む風刺的な歌詞が含まれています。

このように

- 歴史上最も永続的な曲は何ですか？
- ポップがラベルなしでセクシュアリティをどのように受け入れたか
- アフガニスタンのロックンロール反乱軍

2009年、Bashar は Facebook で自分の音楽を共有し、YouTube と Soundcloud にアップロードし始めました。その後すぐに、彼はそれを Spotify に追加しましたが、プラットフォームは仮想プライベートネットワーク (VPN) を使用して海外市場に登録されたパレスチナ人にしかアクセスできなかったため、地元の視聴者を見つけるのに苦労しました。厳選されたプレイリストや社説を通じて音楽コミュニティを強調する Spotify のオンラインスペースの1つである中東の「ハブ」がないことも、バシャーの音楽が海外で発見されていなかったことを意味します。

ストーリーは以下に続きます

西洋人として、あなたは「アラブ音楽」というフレーズを聞き、40年前に聞いた何かを思い浮かべますが、それはもはや正確ではありません - Larry LeBlanc
それでも10年が経ち、Murad の作品は今や世界的に注目を集めています。4月、彼は西岸のラマラで開催されたパレスチナ音楽博覧会 (PMX) で演奏しました。これは、東エルサレムを含む2つのパレスチナ領土のうち大きい方です。その後、カナダ音楽週間のためにトロントに飛び、毎年恒例のイベントの36年の歴史の中で初めて、スイスとパレスチナのすべて女性のヒップホップ衣装であるカレミと一緒にパレスチナの領土を代表しまし



た。最近では、Murad はアイスランドのテクノグループ Hatari とコラボレーションし、彼らのビデオはオンラインで 100 万回以上視聴されています。彼はデビューアルバムについていくつかのレーベルと話し合っています。

彼のキャッチーなフックと大胆な自作のビデオで、バシヤール・ムラドは世界的な牽引力を獲得しているパレスチナのポップスターの新しい波をリードしています (クレジット: David Corio)

彼のキャッチーなフックと大胆な自作のビデオで、バシヤール・ムラドは世界的な牽引力を獲得しているパレスチナのポップスターの新しい波をリードしています (クレジット: David Corio)

ムラドの成功は、はるかに大きなジグソーパズルの一部です。フェスティバルのラインナップ、レーベルのリリーススケジュール、エージェンシーの名簿を注意深く見ると、さまざまなジャンルのパレスチナのアーティストがより定期的に登場しています。これは、彼らが直面する特異な課題を考えると注目に値します。

伝統的な意味でのポップアクトである Murad がカナダで演奏されている間、中東のサイケロックセッションである TootArd はグラストンベリーで演奏する準備をし

ていました。昨年末、ウードの巨匠、ル・トリオ・ジュブランが英国のレーベル、クッキング・ヴァイナルを通じて最新アルバムをリリースし、その後ロンドンのバービカンでパフォーマンスを行った。パレスチナで最初に国際的に登場した DJ であるサマは、最近 BBC Radio 1 Essential Mix をリリースしました。

私はいつも自分が今していることをすることを想像していましたが、リソースがなかったのがそれが可能だとは思いませんでした - Bashar Murad

パレスチナ音楽、そして実際、アラブ音楽全体の風景は、かつてないほど豊かになっています。カナダの主要な音楽ジャーナリストであり、PMX の国際コンサルタントである Larry LeBlanc は、BBC カルチャーに次のように語っています。これは商用音楽であり、非常に輸出可能です。」これは、昨年この地域で開始された最初の主要なストリーミングサービスになるという Spotify の決定の背後にあるように思われます。

「私はいつも自分が今していることをすることを想像していましたが、リソースがなかったのがそれが可能だとは思いませんでした」とムラドは言います。「しかし、パレスチナのミュージシャンは、私たちの声を国際的な世界に発信する方法を考え出していると思います。」



守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号: 00960-2-303500番
名称: オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番): 〇九九店 (099)
預金種目: 当座
口座番号 0303500

おいしいパレスチナ

ムジャッダラ

ムジャッダラは、シンプルで風味豊かなご飯とレンズ豆のピラフで、甘いキャラメリゼした玉ねぎをトッピングしています。

準備時間：10分

調理時間：1時間40分

合計時間：1時間50分

6人分(各1カップ)

材料

大さじ2オリーブオイル

黄タマネギ4個

クミン小さじ1

オールスパイス小さじ1

小さじ1/4のすりつぶしたクローブ

2.5カップの野菜スープ

長粒白米(またはジャスミン)1カップ

茶色のレンズ豆1カップ

作り方

玉ねぎを薄くスライスし、オリーブオイルを入れた大きな鍋に入れます。弱火で1時間、または濃い黄金色になり、べたつき、カラメルになるまで頻繁にかき混ぜながら調理します。玉ねぎの半分を取り除き、調理後にピラフの上に置いておきます

クミン、オールスパイス、クローブを残りの玉ねぎと一緒に鍋に加えます。スパイスを軽くトーストするために約1分間炒めます。野菜のスープを加え、鍋をよくかき混ぜて、鍋の底に付着した茶色い部分を溶かします。

ご飯とレンズ豆を鍋に入れます。鍋に蓋をして火を強めます。中身が沸騰するまで待ちます。完全に沸騰したらすぐに火を弱め、30分煮ます。30分後、火を止め、蓋を外さずに10分間休ませます。最後に、カラメル玉ねぎを上に乗せます。温かくお召し上がりください。



パレスチナの詩

モハムード・ダルウィシュ

共通の敵

戦争がシエスタを持つ時が来ました。戦闘員はガールフレンドのところに行き、疲れていて、彼らの言葉が誤解されるのではないかと恐れています。「私たちは死ななかつたので勝ちました、そして私たちの敵は彼らが死ななかつたので勝ちました。」敗北は見捨てられた表現です。しかし、個々の戦闘員は、彼が愛する人の前では兵士ではありません。「もしあなたの目が私の心に向けられていなかったら、弾丸はそれを貫通していたでしょう！」または：「殺されるのを避けなくなかったら、誰も殺さなかつただろう！」または：「私は死んだらあなたを恐れていたもので、私は安らかにあなたの心に生き残った。」または：「英雄は私たちが墓地でのみ使用する言葉です。」または：「戦闘では私は勝利を考えていませんでしたが安全です、そして背中の中のそばかすの」または：「安全と平和とあなたが眠る部屋との違いはほとんどありません。」または：「私が喉が渴いたとき、私は敵に水を求めましたが、彼は聞こえませんでした、それで私はあなたの名前を話しました、そして私の渴きは癒されました。」両側の戦闘機は彼らが愛する人の前で同じようなことを言います。しかし、双方の犠牲者は、彼らが共通の敵を持っているのは手遅れになるまで気づきません。死。では、それはどういう意味ですか？

2 人の見知らぬ人

彼は上向きに見えます
そして星を見る
彼を見て

彼は谷をのぞき込む
そして彼の墓を見る
彼を見て

彼は女性を見ます
彼を苦しめ、喜ばせる人
彼女は彼を見ていません

彼は鏡を見る
そして彼のような見知らぬ人を見る
彼を見てください。



「土地の日」連帯企画

パレスチナー
自由と解放の行方は

2021.
4/3. 開始14:00 終了17:00

講師
編集者/民族・植民地問題研究者
太田昌国 さん

資料代 1000円
講演テーマ
コロナ禍で世界はどう変わるのか

会場：京都府部落解放センター4階ホール
〒603-8151 京都市北区小山下龍町5-1

主催：オリブの会 olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp / [In&fax072-737-9454](tel:072-737-9454)

※お問い合わせは主催者までお願いいたします。●キャンセル料●事前申込●です。申し込みの場からも、後援のせてあるいは無断でご遠慮ください。

今号の内容

- トランプごのためのシオニストの策動・1
- コロナとパレスチナ・・・・・・・・・・2
- パレスチナの選挙・・・・・・・・・・3
- オスロを再び復活させる・・・・・・・・4
- UAWCの12月レポート・・・・・・・・6
- パレスチナポップの台頭・・・・・・・・12
- おいしいパレスチナ・・・・・・・・・・14
- パレスチナの詩
モハムード・ダルウイシュ・・・・・・・・15

